# 二〇一五年　八月

# 「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

## 今月の言葉

**いちばん身近な人のおかげがみえないようでは**
**しあわせにはめぐりあえない**

**東井義雄**（とういよしお）

みなさんにとって「いちばん身近な人といえば、誰でしょうか」両親、兄弟姉妹、それとも友人でしょうか。

おかげという言葉は、「御蔭」と漢字で書きますが、『広辞苑』には「神仏のたすけ。加護（かご）。または人から受けた恩恵・力ぞえ」とあります。

神仏のたすけも、人から受けた恩恵・力ぞえも、いずれも目には見えません。しかし表面よりもむしろ、裏側の「蔭」にこそ本質があるのです。先人達はそれを見抜いて、目には見えない大切な存在に対して、崇敬の念を込めて「御蔭さま」と感謝を述べてきました。

空気や水は当たりまえのようにあるから、その大切さになかなか気付けません。同様に一番身近な人の大切さにもなかなか気付けないのではないでしょうか。しかし、あなたがその人の御蔭に気づいていくところに、「しあわせにめぐりあえる」と今月の言葉は教えてくれるように思います。

## 今月の聖語

**世の中安穏（あんのん）なれ　仏法（ぶっぽう）ひろまれ**

**『親鸞聖人御消息』**（しんらんしょうにんごしょうそく）

この八月でちょうど戦後七〇年の節目を迎えます。

筆者の祖父は本校（旧制中学校）卒業生です。昭和二十一年（一九四六）年に卒業しました。現在の人工芝グラウンドは、戦時中の食料確保のため芋畑だったと聞いています。一九四五年八月一五日の終戦まで、祖父はクラブ活動どころか学徒動員のため工場で武器を作っていたそうです。

学校で学び、クラブで元気に活動できるのは「世の中安穏」すなわち世の中が平和であるからです。時代を超えて万人が願う平和。しかし昨今、その「平和」が問われています。政治の是非を論ずるつもりはありませんが、今一度みなさんには考えてほしいと思います。

聖語で親鸞聖人は「世の中が平和になってほしい、仏教がひろまってほしい」と示されています。聖人は仏さまの声に耳を傾けながら、内面の平和ひいては世の中の平和を仏教に求められた方です。特に現高２・３年生は来年以降に参政権を得ます。この機会に、仏教に学び心の平和を求めながらも、世の中の平和についても考えてみてください。

宗教教育係